

令和元年度

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

令和2年3月18日現在

那覇市医師会那覇看護専門学校

# 目 次

1 学校の理念、教育目標 .....	1	基準7 学生の募集と受入れ.....	10
2 本年度の重点目標と達成計画 .....	2		
3 評価項目別取組状況 .....	3	基準8 財 務 .....	11
基準1 教育理念・目的・育成人材像 .....	4	基準9 法令等の遵守.....	12
基準2 学校運営.....	5	基準10 社会貢献・地域貢献.....	13
基準3 教育活動.....	6		
基準4 学修成果.....	7		
基準5 学生支援.....	8		
基準6 教育環境.....	9	4 令和元年度重点目標達成についての自己評価 .....	14

# 1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p style="text-align: center;"><b>教育理念</b></p> <p>本校は、看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養を育て、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる看護実践者を育成する。その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。</p> <p><b>教育目的</b></p> <p>本校は、看護実践者として人間力、判断力、実践力を身につけ、地域医療に貢献できる人材の育成をする。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的行動がとれる。</li><li>2 他者との関係を築くことができる。</li><li>3 看護者に必要な知識・技術・態度を身につけることができる。</li><li>4 自律心・探究心を持ち、創造性を発揮できる。</li><li>5 地域社会に関心を持ち、保健・医療・福祉を考えることができる。</li><li>6 看護学を学び、自分の健康生活と人生の充実を考えることができる。</li></ol>	<p style="text-align: center;"><b>教育目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解する能力を培う。</li><li>2 人間の健康と生活を、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解する基礎的能力を培う。</li><li>3 一人ひとりの多様な価値観を認め、看護実践者として、対象の意思決定・自己実現を支援できる基礎的能力を培う。</li><li>4 看護者としての責任と義務を担い、職業倫理に基づいた行動決定をするための基礎的能力を培う。</li><li>5 看護実践者として、自律・探究・創造する能力を育み、将来にわたり、自己の成長と人生の充実を考えることのできる能力を培う。</li><li>6 看護の知識・技術・態度を活用し、人々の健康課題を明らかにし、看護の対象に対して科学的根拠に基づいて安全に看護実践できる基礎的能力を培う</li><li>7 あらゆる発達段階、健康段階及び障がいの状態に応じた看護を安全に実践するための基礎的能力を培う。</li><li>8 保健医療福祉制度と他職種の役割を理解し、協働するとともに、人々が社会資源を活用できるよう調整するための基礎的能力を培う。</li><li>9 国内外の動向に関心を持ち、社会の変化及び状況に応じた看護の役割を認識できる基礎的能力を培う。</li></ol>

## 2 本年度の重点目標と達成計画

令和元年度重点目標	達成計画・取組方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安定した学校運営</li> <li>2 教育課程の円滑な運営</li> <li>3 教職員の資質の向上</li> <li>4 教育環境の整備</li> <li>5 学生支援の強化</li> <li>6 入学生・卒業生への支援</li> <li>7 広報活動</li> <li>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</li> <li>9 後援会及び同窓会活動の支援</li> </ol>	<p>(1) 安定した学校運営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定を図る。</li> <li>②均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努める。</li> <li>③自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、「魅力ある選ばれる学校」となるよう、積極的に情報を発信（情報公開）していく。</li> <li>④学校の将来を考える会を開催し、学校運営・教育課程の在り方等について議論を進め、カリキュラム改正に向けて取り組んでいく。</li> </ol> <p>(2) 教育課程の円滑な運営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①外来講師、専任教員、臨地実習施設の確保・定着に努める。</li> <li>②看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人として、将来を担う看護実践者に求められる能力を育成する。</li> <li>③実習指導者との情報交換、連携・協働を推進する。</li> <li>④地域包括ケアへの移行を見据え、新カリキュラム構築に向け現行カリキュラムの評価を行う。</li> </ol> <p>(3) 教職員の資質の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①県内外の研修会・学会へ派遣する。</li> <li>②授業参観計画を立案・実施できるよう取り組んでいく。</li> <li>③教務主任及び看護教員養成講習会未受講者の研修派遣をする。</li> <li>④看護研修への取り組みを支援し、県内外の学会発表を推奨する。</li> <li>⑤キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を実施する。</li> </ol> <p>(4) 教育環境の整備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図書の充実、図書室の利用率を高め、学生の学習活動を支援する。</li> <li>②教材備品の管理を徹底し、教材教具を積極的に活用し、学生の主体的な学習活動を支援する</li> <li>③建物等の自主点検を定期的に行い破損防止、事故防止の強化を図り、保全管理に努める。</li> <li>④駐車場の整備、花壇やロビーの美化に努め、学生の情緒教育を促進する</li> </ol>

### 3 評価項目別取組状況

## 基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・目的・目標は、看護職に必要な人間への深い関心を示す豊かな感性を持った看護実践者を育成するという哲学的な概念を含む理念を掲げ、専門職の特性を明文化している。</p> <p>理念を実現するための、教育目的・目標を明示し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野の領域ごとの目的・目標を掲げ教育計画を立案・明確化している。理念を学生・保護者、関連施設等へ浸透させるために、理念を理解しやすいようロゴマークを作成し、周知の工夫を行っている。今後も後援会や学校便り等にて保護者への周知を図る工夫を行っている。</p> <p>学生が主体的に学べるよう、協同学習技法を取り入れ、アクティブラーニングを教育活動として展開している。</p> <p>教育理念に基づき、社会のニーズに即応した看護専門職業人『看護実践者』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。年度初めに重点目標・事業計画を提示し周知している。</p> <p>『看護実践者を育成する』とは「何ができる人なのか」「望ましい卒業生像」とは「どのような能力をもっているのか」具体的な能力として表現ができるよう、カリキュラム開発会議にて現行カリキュラム評価を行い、検討を進めている。</p>		<p><b>入学前プレスクール</b> 入学前授業として、4回シリーズのプレスクール実施</p> <p><b>TAとの連携による技術教育</b> 在学中は、実習施設と連携協力の下、ティーチングアシスタント（TA）による技術教育を行っている。</p> <p><b>目標管理シートの活用</b> 在学中の学生は『目標管理』シート（プロジェクト学習の改訂版）を活用して学習活動等に取り組むことができている。また、学年を超えた交流や学びの共有を機会あるごとに行うことができている。</p> <p><b>シミュレーション学習、協同学習</b> 教育活動の工夫として、シナリオベースのシミュレーション学習、協同学習等、学生が主体的に学べるようアクティブラーニングを活用した授業方法を展開している。</p> <p><b>里帰りトレーニング</b> 卒業生に対しては、卒業後5か月目、卒業後1年目に里帰りトレーニングを実施し、卒業後の精神的ケアや、臨床実践能力の支援を行っている。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>意見、提言など特になく妥当と思われる。</p>		

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念に基づき、社会のニーズに即応した看護専門職業人『看護実践者』を育成するために、学校の運営方針について、『那覇看護専門学校事業計画』に明文化している。重点目標・事業計画を提示し、前期には中間評価を行い進捗状況の確認と後期に向けての取り組みの見直し及び確認を行っている。『魅力ある選ばれる学校』となるよう、積極的に情報発信し、透明性・客観性を確保し学校の質保障・向上を図っていく。</p> <p>本校は、教職員会議の場が意思決定の場であり、会議規程を定め、定例会議等を開催し、議事録は開催ごとに作成している。規則・規程等の改正が必要であれば 管理者会議を経て学校運営委員会等で審議し改正していく。教職員の研修計画を取り入れ、自己研鑽の機会とし資質向上を図っている。また、人材確保については、ホームページやナースセンター及びハローワーク等で採用広報を行っている。人事考課制度については、法人が行う規定の見直しや『働き方改革』等を見据え検討することが必要である。</p> <p>学生の主体的な学習活動を支援、業務の効率化を図るためにも、教務事務の役割を明確化し、学生の情報管理システムを構築、タイムリーな情報提供を行い、トラブル発生が無いよう、今後も適切にセキュリティ管理を行なっていく。</p>	<p>人事考課制度については、法人が行う規定の見直しを行っている。</p> <p>『働き方改革』等についても検討し組織の一員として、組織の活性化につながるよう業務改善プロジェクトを立ち上げ、できることから取り組んでいく。</p>	<p><b>学務システムによる効率的な運用</b> 学務システムを取り入れ教務事務による効率的な運用ができています。 情報管理システムを構築し、学生へもタイムリーな情報提供（出欠席管理）ができるよう環境整備している。</p> <p><b>業務改善プロジェクトによる活動</b> 組織の活性化に向け業務改善プロジェクトを立ち上げ取り組んでいる。</p>
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
意見・提言など特になく妥当であると思われる。		

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業後の動向として、職場定着率や適応等について調査をしている。</p> <p>授業評価はすべてにおいて実施する体制は整っている。臨地実習については、実習指導者、教員、学生の3者の評価を行っている。</p> <p><b>成績評価・単位認定</b>            成績評価の基準について学生便覧に規定し、且つ学生に明示している。又、入学前の履修について学生便覧に明記し、単位認定会議も実施している。更に前期、後期の単位認定会議も実施している。</p> <p>中国語医療講座を受講後、検定試験を受けさせた。又、9月後半より、福祉住環境コーディネーター検定講座を希望者に受講させ、検定まで受けさせる。</p> <p><b>資格・免許の取得の指導体制</b>            看護師資格取得の意義、目標、取得までの取り組み内容を明確にし、1年次から意識的に取り組めるよう、先輩と交流を図り、計画を立て取り組んでいる。2年生は業者模試、3年生は解剖生理、病態生理等の強化を図っている。</p> <p>又、国家試験不合格者も3年生同様、業者模試、ゼミ等受けるなどの支援を計画的に行っている。</p>	<p>授業評価について、領域によって実習指導者が形成評価を実施できない領域がある。そこで、実習指導者が評価しやすいようにループリクを検討していく。</p> <p>すべての教員が授業参観をできるよう年間の計画を立て、実施し、評価を年度末に行い、次年度の計画立案につなげる。</p>	
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
<p>キャリア教育を行う上でキャリアデザインについて学生は何に向かって学び続けるのか、現場でどうキャリアラダーと結び付けていくのかイメージができないと思われるので、何年後の自分をどう描くのか、基礎看護教育へ期待したい。</p>		



## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率 就職率100%を目標に設定している。事務部で就職先を把握しデータ化している。更に就職セミナーは毎年1回、県内の病院を招き、校内で実施している。</p> <p>資格・免許の取得率 看護師資格取得について、100%を目標設定し、1年生から国家試験対策を実施している。毎年、合格実績を学校案内に表示し、全国の合格率とともに比較している。又、指導方法と結果を分析し指導方法を検討している。</p> <p>卒業生の社会的評価 卒業生の社会的評価については、卒業生像から評価アンケートを作成し、卒業生とその就職先の看護部長へ郵送し協力をしてもらった。アンケートに対して、一部の看護部長から評価内容が抽象的で評価は難しいとの意見があった。このことから、卒業生像の見直しが必要であり、今後の課題が明確になった。</p> <p>卒業生の受賞状況や研究業績の把握については、県内における研究発表は学会誌等で確認しているが県外については把握ができていない。</p>	<p>在籍しているかどうかだけでなく、活動の実態等も把握しデータに残すようにする。</p> <p>①卒業生像の見直しと卒業生の就職先を実際に訪問して、現状を把握する。</p> <p>②卒業生が自分の活動報告をできるようにホームページや掲示板のシステムを構築していく。</p>	
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生への就職等に関しては、学年担当教員と就職担当事務職員は連携しており、学生の就職活動の状況は学内で共有している。学生の学業継続の相談に関しては、各学年チーム担当教員や教務部長が面談、必要時、学校長、保護者も交えて面談を実施している。また、心理カウンセラーの活用の促がしや、必要時、相談医を紹介している。令和元年度退学者は2名であった。</p> <p>学生の経済面に対する支援として、困窮している学生には各奨学金の紹介や、個別相談に応じている。大規模災害時及び家計急変時等に対する支援制度は整備している。</p> <p>学生の健康管理では、学校健康診断、抗体価検査、予防接種計画を定め、年1回の学校健診を行い2次検診が必要な学生には随時指導を行っている。健康面で問題がある場合には、担当教員との連携を行って支援している。課外活動の支援は、サークル担当窓口の教員を配置し予算やサークル活動についての相談を行っている。</p> <p>保護者に対して、入学式後に学校説明会を開催し、本校の教育理念・目的・目標及び教育課程内容の説明を行っている。また、後援会役員会及び総会を通して学校の教育活動状況や学校の支援体制について説明し周知を図っている。</p> <p>卒業生の支援として、同窓会が結成されており計画的に総会や特別講演を開催している。卒後5ヶ月と1年目に「里帰りトレーニング」を開催している。社会人経験者の入学に際し、入学前の履修科目に対して、学則に従って単位認定をしている。</p>		<p><b>学生の就職等進路</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学の情報提供や個別相談を行っている。</li> <li>・県外就職の卒業生に対し、就職先訪問を実施。</li> <li>・就職試験や履歴書・小論文の書き方、面接時マナー等の支援を行っている。</li> </ul> <p><b>学生相談の体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年チーム担当教員が、相談窓口として学生を支援している。</li> <li>・学生が相談しやすいように男性・女性のカウンセラーを配置している。また、専門医による治療が必要な学生に対しては、相談医リストを提示し、受診できる支援体制を整えている。</li> </ul> <p><b>学生生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的支援制度の情報提供を十分行っている。 日本学生支援機構・沖縄県看護師等奨学資金 教育訓練給付制度・専修学校奨学金給付事業他</li> <li>・学生の健康管理に関して、「わたしの健康ノート」を活用し、学校健診、抗体価検査、ワクチン接種状況が管理できるよう指導している。</li> </ul> <p><b>保護者との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生会が発行している「那覇看だより」で学生生活の情報提供を行っている。また学校HPも随時更新し情報を発信している。</li> </ul> <p><b>卒業生・社会人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒後は、5ヶ月と1年目に「里帰りトレーニング」を開催している。卒業後の研究活動の支援として図書館を開放し、個別での相談も行っている</li> </ul>
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・整備等に関しては、看護師養成所の運営ガイドラインに基づき機械器具、標本、模型及び図書を十分に整備している。また、法定点検や日常点検を定期的に行い必要に応じて部品の取替や修繕を行っている。</p> <p>学外学習に関して、臨地実習について教育課程上の位置づけを明確にし、臨地実習要項を作成し適切に運用している。実習施設との臨地実習協議会を開催し、連携を密にしている。また年度末にはユニフィケーション会議を開催し協同学習や現場との意見交換を行っている。臨地実習の教育効果について、目標評価スケールステップアップスケールの活用で基礎的能力・成長過程の評価を確認している。</p> <p>入学式・宣誓式・卒業式やオープンキャンパス・学校祭等は、学生会を中心に委員会を設立し教職員と共に参画している。また、卒業生・保護者・実習施設等へ学校行事の案内を積極的に行っている</p> <p>学校の防災・安全管理に関して、学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備している。施設・建物・設備の耐震化を確認している。</p> <p>消防設備等の整備及び保守点検を法令に基づき適切に対応している。</p> <p>備品の転倒防止など安全管理している。学内における安全管理体制を整備し、適切に運用している。</p> <p>実習中の災害発生時の学生の安全確保について、マニュアルを作成し臨地実習要項に載せ、学生への説明、実習施設への説明を実施している。</p>		<p><b>模擬負傷者役を通して防災意識、安全教育</b>            災害看護の演習の一環として、那覇空港航空機事故防災訓練及び那覇市防災訓練へ学生は模擬負傷者役で参加している。</p> <p><b>ステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価</b>            臨地実習の教育効果については、各領域の目標評価スケール及びステップアップスケールを用いて基礎的能力の評価・成長過程の評価を確認している</p>
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
意見、提言など特になく妥当と思われる		

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集に関しては、主に高校2年生、3年生への進学説明会を積極的に行い看護師教育についての情報提供を行っている。また、年に1回高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明した。その他、下記の取り組みを行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県内看護師養成学校及び県内看護大学等の入試計画を参考に、できる範囲で入試日程が重複しないように努め、受験生にとって不利益にならないように配慮している。</li> <li>2. 学校案内パンフレットを毎年作成して、入学希望者や保護者、高校の教員等へ配布し広報活動に努めている。</li> <li>3. 募集要項については、県内ほぼ全ての高等学校進路室へ配布している。</li> <li>4. ホームページにおいても、入試情報を提示している。</li> <li>5. オープンキャンパスや学校祭等の学校行事においても募集活動として進学説明会を行っている。</li> <li>6. 外国籍の方の受入れについては課題である。</li> </ol>	<p>高校を卒業した浪人生や進路変更を考えている社会人に対する募集案内が弱い。方策としては、ホームページを充実させることや相談会の場を設けること等がある。学校案内パンフレットの配布先を高等学校以外に医療機関の事務職方向けや予備校へも配布することを検討している。また、ガイダンスについても社会人を対象とした場も検討する。</p> <p>外国籍の方については応募の際に国家試験を取得するための条件を確認することとする。</p>	<p><b>高等学校進路担当の教員へ学校説明会の開催</b>            高校の教員に対する学校説明会を実施し、本校の教育の特徴等を説明している。            入学希望者・保護者・高校の教員等一般向けの学校案内パンフレットを作成して広報活動に努めている。</p> <p><b>受験生への個別相談</b>            オープンキャンパスや学校祭においては学生によるフリートークのブースを設け受験生の個別相談に対応している。</p>
<p>学校関係者評価委員の意見</p>		
<p>意見、提言は特になく妥当と思われる</p>		

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>収入においては、受験者数は目標達成でき、予算どおりの収入を確保することができた。</p> <p>安定した財務状況である。中長期的に学校の財務基盤は安定しており、適切に会計監査を受けている。</p> <p>業務は法令等に従い適正に実施されている。また、事業報告書は法令に従い、本校の状況を正しく示している。</p> <p>公認会計士による定期監査を実施し指導を受けている。</p> <p>財務情報公開体制の環境も整い情報公開している。</p> <p>予算規定が整備されていないので課題としている。</p>	<p>予算規定については法人全体で検討する。次年度までには整備できるように進めていく。</p>	<p><b>適宜整備計画の見直し</b></p> <p>カリキュラムの変更や法令等の変更があった場合には、それに従い整備計画の見直しを図る。</p> <p><b>適切な財務管理</b></p> <p>県より運営費の補助を受けており、財務管理においても県の要綱に従い管理、運営を行っている。</p>
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
<p>今後の改善課題に向けて整備できるよう期待する。</p>		

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき学校を運営し届け出ている。運営に必要な規則・規定等は、整備し適切に運用している。</p> <p>ハラスメント防止等に関する規定を作成し適切な運用ができるよう研修会をR元年8月27日に本校カウンセラーにより行った。個人情報保護に関することや学務システムおよびサイトに関しても、適切に運用している。</p> <p>学生へもSNSと個人情報管理について特別講義を行っている。また、臨地実習前オリエンテーションでも継続して周知している。</p> <p>教職員が学生に対しての個人情報を法令に基づいて遵守することに関しては、個人情報の誓約書を書いている。</p> <p>学校関係者評価結果は報告書にとりまとめ、学校関係者評価委員会の意見も合わせてホームページに掲載している。</p>	<p>SNSと個人情報管理については引き続き特別講義や臨地実習前オリエンテーションにて周知をしていくが、その操作を行うスマートフォンなどのタブレット端末の学内・実習先での使い方やマナーを見える化し教職員で共通理解し、学生へ周知して行く。</p>	
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
<p>倫理観について基礎教育でどう育てていくのが大切である。人間への関心が倫理教育のスタートだと思われる。専門職としてどう落としこみ、意識していかるか基礎教育に期待する。</p>		

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実習施設との連携にも力を入れ、臨地実習施設と学校の教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、講師のキャリアアップのために認定書を交付している。ティーチングアシスタント（TA制度）と里帰りトレーニングを実施している。就職指導に関しては、県内の実習病院を中心に就職説明会を行っている。</p> <p>学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放も積極的に行い、実習病院や各専門学校、医療系大学、沖縄県と広く連携しながら運営ができています。</p> <p>ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し参加している。また、学生のボランティアの活動実績を評価し、卒業時に表彰している。</p> <p>世界遺産である首里城の火災に対して、学生会が中心となり、学校祭で得た収益金を復旧・復興支援義援金として寄付を行った。</p>		<p><b>キャリアアップ支援としての『認定書交付』</b> 「認定書交付」学校と実習施設との連携として教育連携推進会議（ユニフィケーション会議）を開催し、技術教育に携わった方、講義を行った方へキャリアアップの為の成果として認定書を交付している。</p> <p><b>学生会活動(ボランティア活動)</b> 「ボランティア活動」ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励し、学生の活動実績を評価し、卒業時に表彰している。</p> <p>豊見城市に位置していることを活かして、市主催の灯籠祭りへの灯籠づくりへの参加や NAHA マラソンのコースへ位置していることからボランティアの参加を行っている。</p> <p>那覇市医師会主催のイベントへもボランティアとして参加している。</p>
<b>学校関係者評価委員の意見</b>		
意見、提言は特になく妥当と思われる		

## 4 令和元年度重点目標達成についての自己評価

令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1 安定した学校運営</p> <p>2 教育課程の円滑な運営</p> <p>3 教職員の資質の向上</p> <p>4 教育環境の整備</p>	<p>1. 安定した学校運営 教育目的・目標の達成に向けて組織体制・財政基盤の安定化については、均衡のとれた財政管理に努め、支出については適切な節減に努めることができた。 年度末に学校運営全般の自己点検・自己評価を実施し事業の成果状況と課題を明らかにし、結果を公表することができた。卒業生及び就職先へ卒業生評価のアンケートを実施・分析し、学校の在り方を継続的に検討していくことにした。</p> <p>2. 教育課程の円滑な運営 外来講師及び臨地実習施設の確保は安定的に行えている。本年度は、臨地実習非常勤教員の確保ができ、マンパワーにおいては支障なく運営することができた。 看護職に必要な自己教育力、社会人・組織人としての基礎的能力の育成については、「step up スケール 看護師として必要な基礎力」を継続的に活用し学生自身で自己評価を行い、自己成長を確認することができた。 本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実習指導者とのユニファケーション会議における情報交換は中止した。しかし、TAによる技術教育関わって頂くことはできた。 新カリキュラム構築に向け現行カリキュラムの評価を継続的に行うことができた。</p> <p>3. 教職員の資質の向上 各自の研修計画を基に県内外の研修会へ参加することができた。県外学会発表は3件派遣することができた。また、実習施設と教育現場との連携・協働については、実習施設で行われている院内研究発表会へ参加することができ、教育の資質向上に努めることができた。 教務主任養成講習会へ派遣することができた。 キャリアラダーを活用した目標管理に基づく評価面接を年2回(中間・年度末)実施することができた。</p> <p>4. 教育環境の整備 運営ガイドラインに基づき機械器具、模型や図書を十分に整備し、図書室については20時まで開放し学生が学習しやすいように体制を整えることができています。施設整備に関しては、法定点検や日常点検を定期的に行い、衛生管理についても徹底して行っている。各教室前や実習室前にはアルコールジェルを設置し入室前に手指消毒できるよう配慮した。</p>	



令和元年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>5 学生支援の強化</p> <p>6 入学生・卒業生への支援</p> <p>7 広報活動</p> <p>8 周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換</p> <p>9 後援会及び同窓会活動の支援</p>	<p>5. 学生支援の強化            学生の健康管理について学生事務からセルフチェックできるよう「私の健康ノート」を配布し、活用できるようにした。経済的支援として各奨学金の紹介や個別相談に対応することができた。            ②社会人・組織人としての基礎的能力、就職・進学等キャリア発達を支援する。③国試対策として3年間の支援計画の下、国家試験合格 100%をめざし、教員及び学生の国試対策委員を中心にかかわることができ、本年度は国家試験 99%の合格率であった            専門性の追求や学び続ける力を支援するために教科外講座として、福祉住環境コーディネーター講習会を開設し、受講者 42 名、24 名合格(57%合格率)であった。</p> <p>6. 入学生・卒業生への支援            入学前支援として 4 回シリーズでプレスクールを実施することができた。卒業後支援として卒後5か月目と卒後1年目に里帰りレーニングを実施することができた。</p> <p>7. 広報活動            日頃の学校生活等について学校ホームページをリニューアルして紹介し充実を図ることができた。学校説明会・学校祭・オープンキャンパスを計画通り開催することができた。</p> <p>(8)周辺地域及び学校との交流及び他校との情報交換            地域の子育て支援講座等へ講師派遣をし、また、学生のボランティア活動を支援し地域貢献に努めることができた。            沖縄県看護教育協議会との情報交換については校長役員会や再教育研修会、領域会議等を通して情報交換はできている。日本看護学校協議会については、学会への発表・参加を通し県外他校の情報収集に努めた。</p> <p>(9)後援会及び同窓会活動の支援            後援会及び同窓会活動がさらに活発に行えるよう事務的支援を行った。</p>	